



**okamura**

# OKAMURA REPORT

第89期 報告書

2023年4月1日 ▶ 2024年3月31日 | 証券コード：7994

## 株主の皆様へ

豊かな発想と確かな品質で、  
人が生きる環境づくりを通して、  
社会に貢献する。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社への格別のご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

オカムラグループは、パーパスである「人が生きる社会の実現」に向け、「豊かな発想と確かな品質で、人が生きる環境づくりを通して、社会に貢献する。」をミッションとして、クオリティの高い製品とサービスを提供することに努めています。

「人が生きる社会の実現」に向けて重要課題を特定し、4つの分野で取り組みを推進しています。「責任ある企業活動」を経営基盤とし、「従業員の働きがいの追求」によって一人ひとりが働きがいを感じるとともに、「地球環境への取り組み」を実践することでサプライチェーン全体を通じて環境負荷を低減していきます。事業活動を通じて「人が生きる環境の創造」を実践することにより人が生きる社会の実現に貢献します。

当社グループでは、2024年3月期から2026年3月期までの3カ年を対象とする「中期経営計画2025」を策定しております。

「新たな需要の創出」を目指して、時代の流れを捉え、提案力と製品力を磨き、「需要創出型企業」への変革を加速します。持続的な成長に向け、新たな需要の創出と変化に対応できる経営基盤強化を図るとともに、事業活動を通じた社会課題解決に取り組んでまいります。

経営基盤の強化として、「人財育成と働きがいの向上」「デジタル技術活用の加速」「多品種変量生産への対応」「市場に根ざした海外事業の展開」の4つのテーマを掲げています。

また、2050年カーボンニュートラル実現に向けた長期的な取り組みを着実に実行するとともに、持続可能な社会づくりに貢献します。



企業価値のさらなる向上と社会課題の解決に取り組み、すべての人々が笑顔で生き活きと働き暮らせる社会の実現を目指します。

皆様には、今後も一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

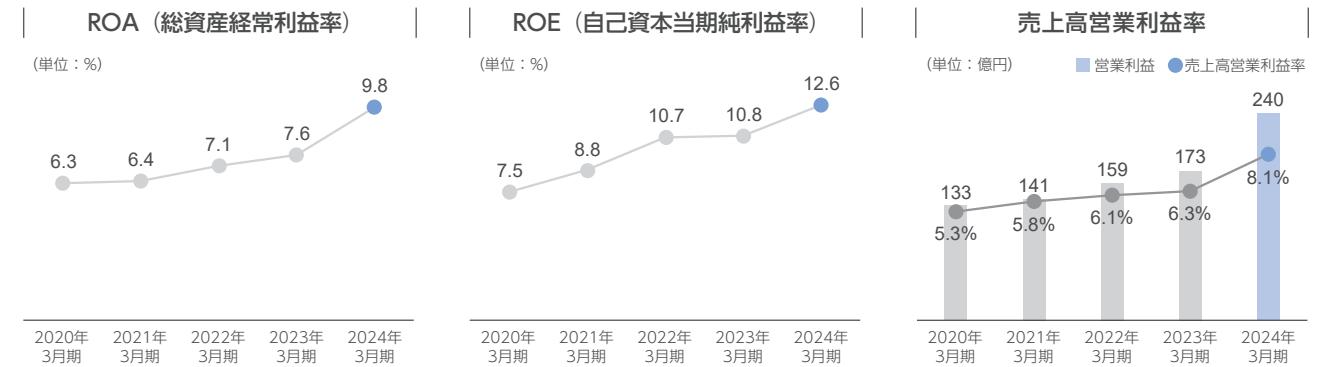
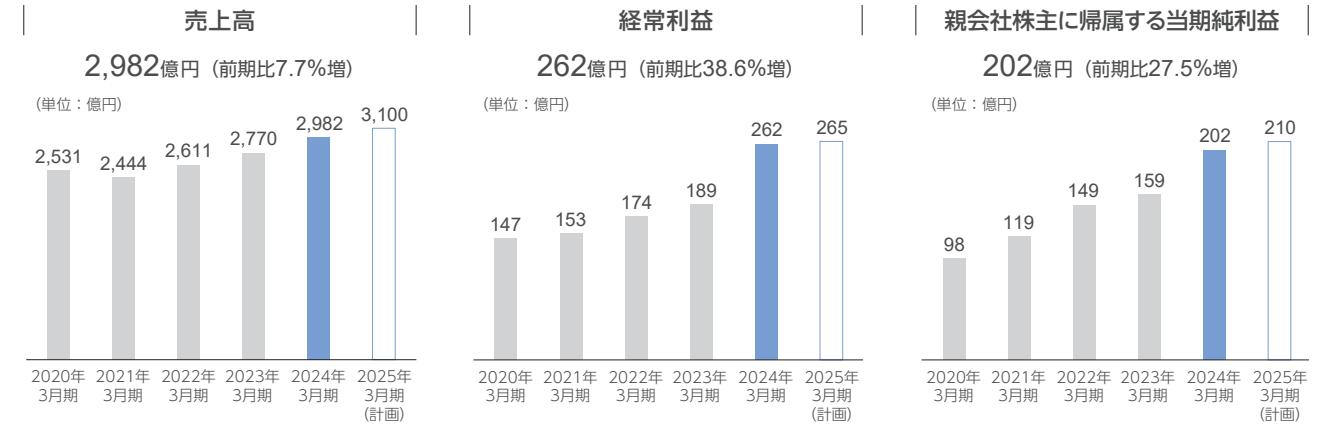
### 当期の概況について

当連結会計年度の国内経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和、外国人観光客の増加によるインバウンド需要の回復などにより、経済活動が正常化に向かう一方、ウクライナ・中東情勢を巡る地政学的リスク、中国経済の先行き懸念、諸資材・部品の価格高騰、世界的な金融引き締めにもなう金利・為替変動などにより、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループはコスト削減や価格転嫁の取り組みの推進に取り組むとともに、コロナ後の環境変化、労働人口の減少など社会・市場の大きな変化を捉えた新たな需要の創出に注力してまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益ともに過去最高となりました。

## 決算ハイライト（連結）



(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

### 配当金についての基本方針

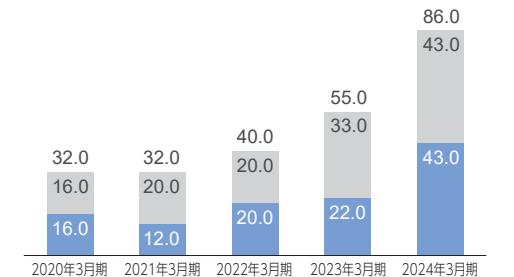
当社グループは、株主の皆様への適切な利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付けております。

利益配当政策につきましては、業績に応じた適正な利益配分を目指すとともに、財務状況、将来の事業展開及び内部留保などを総合的に勘案し、安定配当の維持にも努めてまいりたいと考えております。

### 配当金

第89期  
期末  
43円  
(年間86円)

単位：円  
■ 中間  
■ 期末



## 事業別セグメント概況

▶ より詳細な決算情報は、右記の2次元バーコードよりアクセスいただき、当社IRトップページからご覧いただけます。



### 第89期 決算のポイント

オフィス環境事業は、ハイブリッドワーク普及に向けたリニューアル需要が旺盛に推移、顧客ニーズを捉えた提案営業の推進により、売上高・利益ともに過去最高。

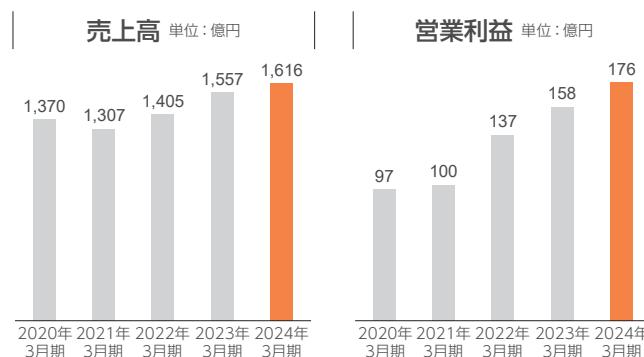
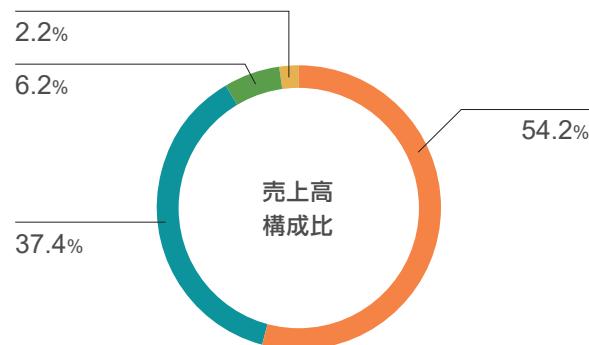
商環境事業は、店舗のリニューアル需要が堅調に推移、総合力の強みを活かした提案でトータル受注の獲得に注力し、売上高・利益ともに過去最高。

物流システム事業は、インテグレーター企業との連携強化等に注力し増加する大型物件の取り込みに成功、収益改善にも努め、売上高は過去最高、利益は大幅増。

### 事業別ハイライト

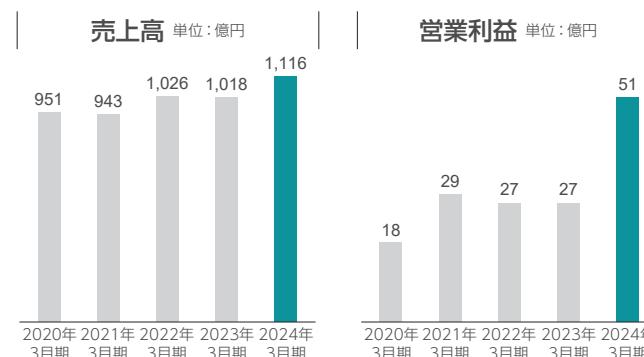
|            | 売上高     | 営業利益  | 売上高構成比 |
|------------|---------|-------|--------|
| ■ オフィス環境事業 | 1,616億円 | 176億円 | 54.2%  |
| ■ 商環境事業    | 1,116億円 | 51億円  | 37.4%  |
| ■ 物流システム事業 | 183億円   | 9億円   | 6.2%   |
| ■ その他      | 65億円    | 2億円   | 2.2%   |

(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。



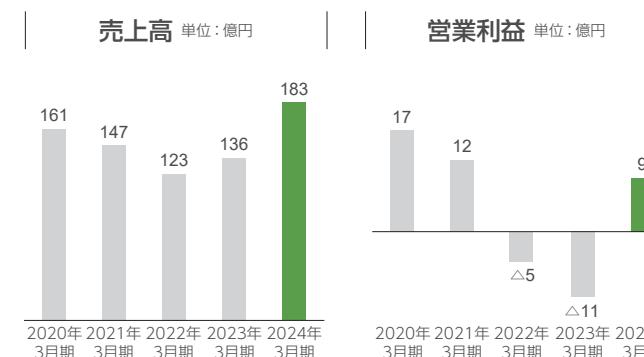
オフィス環境事業につきましては、新しい働き方に対応したオフィスの構築が、業種・規模を問わず多くの企業にとって重要な経営課題となっており、全国でオフィスのリニューアル需要が活発に推移いたしました。このような状況のもと、当社は、ハイブリッドワークとデジタル時代に対応した新しいワークスタイルの提案営業と、それを支える働き方の変化を捉えた新製品を拡充し、需要の取り込みに努めました。一方で、諸資材・部品の価格高騰の影響を受ける中、生産・物流のコスト削減に努めるとともに、価格転嫁の浸透に努めてまいりました。これにより売上高、利益ともに過去最高となりました。

この結果、当セグメントの売上高は、161,692百万円（前期比3.8%増）、セグメント利益は、17,691百万円（前期比11.4%増）となりました。



商環境事業につきましては、食品を取り扱う業態間の競争や、インバウンド需要回復への期待を背景に、店舗改装の需要が堅調に推移いたしました。このような状況のもと、店舗什器、冷凍冷蔵ショーケースをはじめとした幅広い製品ラインナップに加え、店舗デザインや施工管理等を含む店舗づくりのトータルサポート体制を拡充し、当社の総合力を活かした提案による需要の取り込みに努めました。一方で、諸資材・部品の価格高騰の影響を受ける中、生産・物流コストの削減に努めるとともに、価格転嫁の浸透に努めてまいりました。これにより売上高、利益ともに過去最高となりました。

この結果、当セグメントの売上高は、111,682百万円（前期比9.7%増）、セグメント利益は、5,173百万円（前期比90.1%増）となりました。

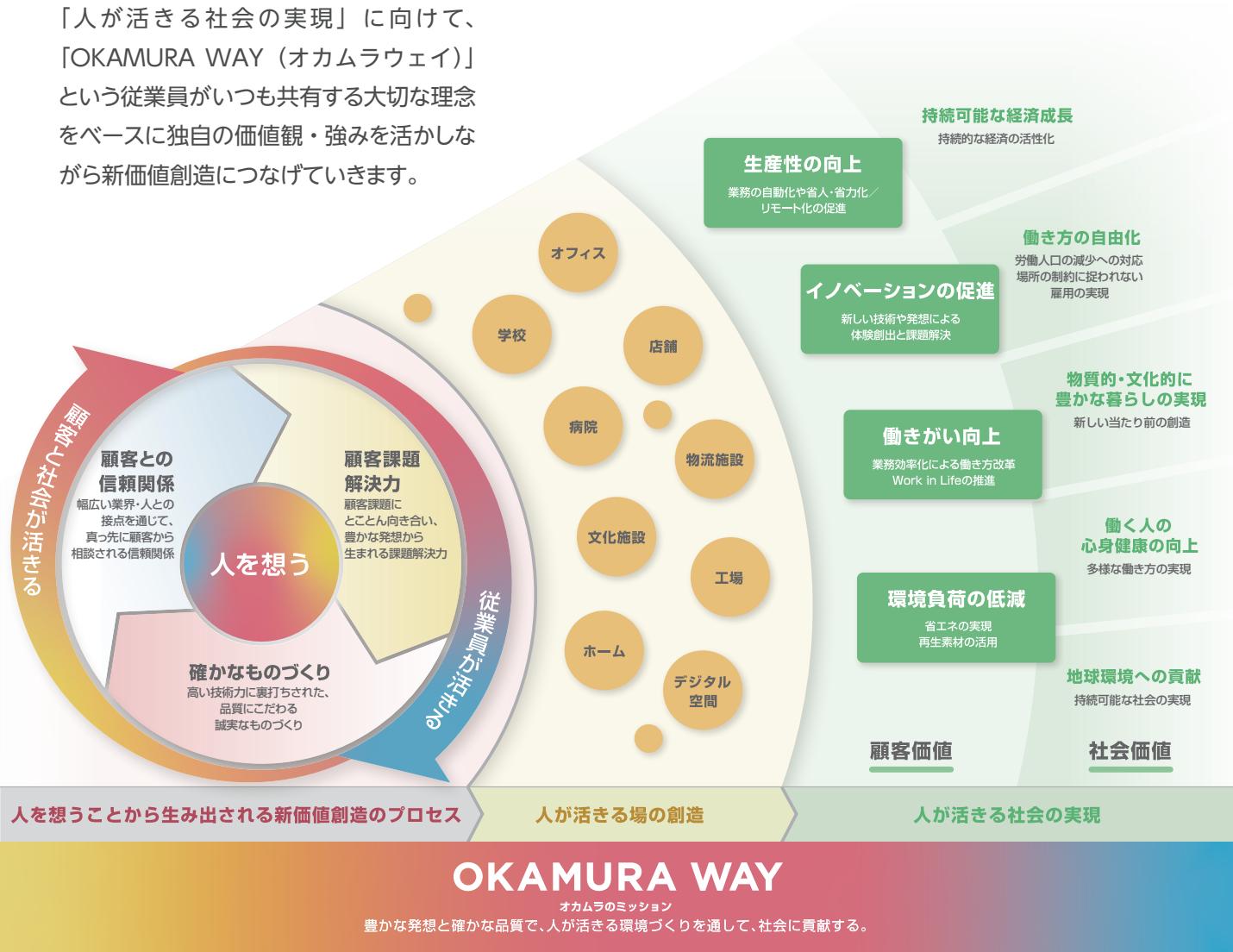


物流システム事業につきましては、省人・省力化ニーズを背景に、物流施設を中心に自動倉庫の需要は高水準で推移しております。一方で、世界的なサプライチェーンの混乱による諸資材・部品の調達難及び価格高騰が継続しております。このような状況のもと、優位性のある製品の強みを最大限に活かした積極的な提案活動を展開するとともに、生産・物流コストの削減や価格転嫁を進める等、収益の改善に努めてまいりました。これにより売上高は過去最高となり、営業利益は大幅に増加いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は、18,387百万円（前期比35.0%増）、セグメント利益は、918百万円（前期は1,196百万円のセグメント損失）となりました。

# 価値創造ストーリーと経営戦略

オカムラグループはパーパスに掲げる「人が生きる社会の実現」に向けて、「OKAMURA WAY（オカムラウェイ）」という従業員がいつも共有する大切な理念をベースに独自の価値観・強みを活かしながら新価値創造につなげていきます。



## 中長期的な会社の経営戦略

オカムラグループでは、当連結会計年度である2024年3月期から2026年3月期までの3カ年を対象とする「中期経営計画2025」を策定しています。

直近の業績及び事業環境を踏まえ、2024年5月10日に定量目標を上方修正しました。

### ■ 中期経営計画2025で目指すもの





## サステナビリティに関する取り組み

オカムラグループのサステナビリティに関するトピックスや外部評価の実績をご紹介します。

### ■ CDPの「Aリスト」企業に選定（2024年2月）

国際的な環境分野の非政府組織（NGO）であるCDPが実施する調査において、気候変動に対する取り組みや情報開示が優れた企業として最高評価である「Aリスト」企業に選定されました。オカムラは2021年度よりCDP気候変動質問書に回答をしており、2022年度は「A-」を獲得、2023年度の今回は「Aリスト」選定となりました。



### ■ サステナビリティに関する主な外部評価

オカムラの各取り組みに対して、さまざまな評価をいただいています。

#### 2023年度の主な認定・アワード実績

EcoVadis「ゴールド」



(2023年11月)

第5回ESGファイナンス・アワード・ジャパン  
(環境サステナブル企業部門 環境開示プロセス企業)



(2024年2月)

健康経営優良法人2024  
(ホワイト500)



2024  
健康経営優良法人  
Health and productivity  
ホワイト500

(2024年3月)

DX認定



(2023年5月)

えるぼし認定（2段階目）



(2020年12月より継続)

くるみん認定



(2022年11月より継続)

### ■ 社会への貢献～次世代育成の取り組み

全国の中学・高校生を対象とした、現実社会と連動しながら「生きる力」を育む探究学習プログラム「クエストエデュケーション」に参画しています。教育と探究社が主催するプログラムで、オカムラが参画する企業探究コース「コーポレートアクセス」は、中高生たちが実在する企業へのインターンシップを教室で体験し、働くことの意義や経済活動について知り、企業という仕組みを活用して自分たちの手で未来をつくることを学びます。参画企業の従業員は、学校訪問等を通して中高生たちの探究活動に伴走します。オカムラからのミッションとして「私の『あいまいさが生きる』未来をつくる オカムラの革新的なサービスを提案せよ!」を提示し、中高生たちはグループで調査や議論をしながら自由な発想で企画を考え、探究活動に取り組みました。

企業として蓄積してきた経験を生かしながら中高生の主体的な学びに関わり、次世代の育成に貢献します。



クエストカップ2024全国大会の様子



オカムラのサステナビリティ最新情報 <https://www.okamura.co.jp/corporate/sustainability/news.html>

特集  
2

## ラボオフィス「CO-EN LABO（交縁ラボ）」 誰もが生き活きと働く空間づくりを提案



電動昇降デスクとモニターを設置した執務席と、窓からの自然の光を取り入れた配置



プライバシーを確保した仮眠スペースの設置



休息できるカフェスペースでは、飲料や果物・野菜などの健康的な食事を提供

オカムラでは、心と体の調和が取れ、活力が向上している状態を「WELL at Work（ウェルアットワーク）」とし、その実現をサポートするために従業員がパフォーマンスを最大限に発揮しそれぞれの働きがい向上を目指すための空間づくりや働き方を提案しています。

東京都渋谷区にある「CO-EN LABO」は、「WELL at Work」の実現を目指したラボオフィスです。調節可能な機能を備えたタスクシーティングや天板の電動昇降機能でさまざまな姿勢に対応するデスクのほか、インドアアドバンテージ認証<sup>\*</sup>を取得した自社製品を多数導入しています。また、プライバシーを確保した仮眠スペースや運動・休息スペースを設置するなど、さまざまなコミュニケーションスペースを設置しました。これらの取り組みが、人の健康とウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に良好であること）に影響を与えるさまざまな機能をパフォーマンススペースで測定・評価・認証する「WELL Building Standard<sup>TM</sup> v2（WELL認証v2）」の評価基準に沿って評価され、認証レベル「プラチナ」を取得しました。

<sup>\*</sup> 米国オフィス家具業界団体BIFMAが設けたオフィス家具による室内空気環境への影響を評価する環境認証

## 下半期事業トピックス (2023年10月~2024年3月)

10月

- ラボオフィス「CO-EN LABO」が「WELL認証v2」の予備認証を取得 (9月)
- 「BioJapan 2023」出展
- メタパース空間に最適化したデジタル家具「オカムラデジタルコレクション」販売開始 (P11)
- 「オカムラグループ 統合報告書2023」を発行

11月

- さいたま市と「市職員の職場環境の検討等のための実証実験に関する協定」を締結
- 「オカムラグランドフェア2024」開催 **TOPICS 1**
  - ー クリエイティブファニチュア「WORK ISLE (ワークアイル)」発売 (P11)
  - ー 電動昇降デスク「Swift Nex (スイフト ネックス)」発売 (P11)
  - ー ワークブース「TELECUBE by OKAMURA C Type」品ぞろえ追加
  - ー エグゼクティブファニチュア「PARADIGM (パラダイム)」発売 (P12)
- 物流ピッキングロボット遠隔操作時の力覚フィードバック効果の調査研究を実施 (物流自動化ソリューション「PROGRESS ONE (プログレスワン)」の事業化に向けた取り組み) (P12)
- 「2023国際ロボット展」出展 **TOPICS 2**

12月

- 日本の「はたらく」を取り巻く9つのトレンド「SCOPE はたらき方のトレンド2024」を発表

1月

- 間伐材を用いた木粉配合の樹脂シェルを使用したミーティングチェア「Runa (ルナ) プレーンタイプ」発売

2月

- 「第52回 国際ホテル・レストラン・ショー」出展
- 「第58回スーパーマーケット・トレードショー2024」出展 **TOPICS 3**
- ラボオフィス「CO-EN LABO」が「WELL認証v2」において最高レベルのプラチナを取得 (P8)

3月

- オカムラとGROUND株式会社が資本業務提携を強化

TOPICS 1

### 「オカムラグランドフェア2024」開催



テーマは「今、オフィスは、イノベーションの舞台へ。Heart Beat Office」。健康的に快適に働ける場を素地とし、イノベーションの創出に必要な交流、アイデアの深化、具現化への加速のそれぞれのプロセスに合ったオフィス環境を提案しました。

TOPICS 2

### 「2023国際ロボット展」に出展



2023年11月29日~12月2日、東京ビッグサイトで開催。自律移動ロボット「ORV」と協働ロボットによる、荷物の積み付けから搬送までの自動化を実現する自動化ソリューションを展示し、来場者の関心を集めました。

TOPICS 3

### 「第58回 スーパーマーケット・トレードショー2024」出展



2024年2月14~16日、幕張メッセで開催。「NEW VALUE NEW FORM・あたらしい価値とカタチ」をテーマに、お店づくりの新しい手法や省エネと鮮度管理の両立、デジタルサイネージやデジタルツールを利用したデザイン提案などを紹介しました。

### さまざまなデザイン賞を受賞

- 2023年度グッドデザイン賞 (10月)  
クリエイティブファニチュア「WORK VILLA (ワークヴィラ)」他5製品
- 2023年"超"モノづくり部品大賞  
「生活・社会課題ソリューション関連部品賞」受賞 (10月)  
「編成樹脂網状構造体 座面クッション材 (E-LOOPシリーズ)」
- JIDAデザインミュージアムセレクションvol.25 (11月)  
ポータブルバッテリー「OC (オーシー)」他1製品
- German Design Award 2024 (12月)  
ポータブルバッテリー「OC」はgold受賞 他2製品
- シカゴ・グッドデザイン賞 2023 (1月)  
建材製品「Lives Post Beam (ライブス ポストビーム)」他2製品
- iFデザインアワード2024 (3月)  
シーティング「Spectra (スペクトラ)」他1製品





人と人のちょうどよい距離感で個人作業の快適性とコミュニケーションを両立する  
クリエイティブファニチュア「WORK ISLE (ワークアイル)」

「ワークアイル」は、座席の距離や位置の関係性に着目し、快適な個人作業の場と偶発的なコミュニケーションを生む場の両立を目指したテーブルシリーズです。快適に個人作業を行うための距離を保ちつつテーブルを囲んで座ることで、周囲の人とのコミュニケーションを図り、つながりをはぐくみます。テーブルを囲む人数が増えるほど、お互いの距離が複雑になり、思いがけない出会いや会話の発生を期待できます。



詳細



エグゼクティブファニチュア  
「PARADIGM (パラダイム)」

仕事の内容に合わせて時間や場所を選んで働くABW (Activity Based Working) やテレワークが浸透し、エグゼクティブも一般のワーカーと同様にテレワークやオンラインミーティングの機会が増えています。また、対面での従業員との意思伝達や意思決定におけるコミュニケーション不足が課題となっています。「パラダイム」は、コミュニケーションを活性化させ従業員との一体感を高めることが重要となるエグゼクティブの新たな働き方へのシフトをサポートする役員用家具です。電動昇降機能を備えたデスクやコンパクトな個室を実現する壁面ユニット、オンラインミーティングに対応できるバリエーションを持ったカンファレンステーブルをラインアップしています。



詳細



電動昇降デスク  
「Swift Nex (スイフト ネックス)」



詳細



2015年に発売した「Swift (スイフト)」をリニューアル。「立ったり座ったり」を繰り返すことで、健康状態にも仕事への集中力にもプラスの効果があることに加え、一人ひとりの身長や体格の違いに合わせて天板を昇降し、快適な働く環境を実現します。「スイフト ネックス」は、「スイフト」の天板をなめらかに昇降させる機能はそのままに構造体を見直し、細い脚をベースに天板の厚さを薄くして広い足元空間を確保、天板面にあった配線口をなくし天板面をフルサイズで広く使えるようにするなど、使いやすさと軽やかでスタイリッシュなデザインを両立しました。



物流自動化ソリューションの事業化に向けた調査研究を実施

詳細



オカムラが事業化を進めているハイブリッド型の物流自動化ソリューション「PROGRESS ONE (プログレスワン)」の取り組みの一環として、物流ピッキングロボットを遠隔操作した際の力覚フィードバック効果の調査研究をモーションリブ株式会社と共同で実施しました。また、この研究は国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) が2022年度に公募したプロジェクト「ロボットによる社会変革推進に向けたロボット・AI部事業の周辺技術・関連課題に係る先導調査研究」の一つとして採択されました。



物流ピッキングロボットを使った実験の様子

TOPICS 01 メタバース空間に最適化したデジタル家具「オカムラデジタルコレクション」

DX戦略における先端のデジタル技術を活用する取り組みとして、デジタル家具「オカムラデジタルコレクション」を発売しました。現実の製品の製造過程で使用する緻密な3Dデータを、メタバース空間に最適化したデジタル家具にしました。メタバース空間のマイルーム・バーチャルオフィスなどへの設置や、カスタマイズを施すことが可能です。

2024年5月には販売サイト「RoomieTale (ルーミーテイル)」を開設しました。



「RoomieTale」トップページ

TOPICS 02 オフィスでいちごを栽培、オフィス向け植物工場パッケージの開発

日販グループホールディングス株式会社、日本出版販売株式会社と共同で、年間を通して毎日新鮮ないちごが収穫できる植物工場を生活空間に提供するサービス「City Farming (シティファーム)」のオフィス向けパッケージの開発を開始しました。開発に向け、オカムラのラボオフィスにて試験導入を行いました。日常で多くの時間を過ごすオフィス空間でいちごの栽培を通じて、社員同士のコミュニケーションの活性化を期待します。



ライフ初芝店

1973年開店の旗艦店舗を建て替え  
お客様と従業員の接点が多い店舗



スーパーマーケット「ライフ初芝店」は、1973年に出店され約半世紀もの長い間、お客様から高い支持を得てきました。2022年、1フロア当たりの売場面積を拡大し2層の店舗として生まれ変わりました。オカムラは什器や内装など店舗づくりをトータルでサポートしました。

1フロアの売場面積は、拡大したとはいえ近年出店するスーパーマーケットの売場としてはややコンパクトです。そこで商品部門ごとに通路幅を変え、商品陳列棚（ gondola ）やショーケースの配置を微妙にずらすなどの工夫を行い、意図的にクランクを設けて売場に変化をつけています。また、お客様と従業員がコミュニケーションをとりやすい売場になっていることも特徴的です。鮮魚や惣菜部門では、クレンジネスを徹底することで、売場とバックヤードを仕切るガラスの上部カットや全面的な撤去がなされています。

1年10カ月の建て替え期間中は、隣接地で「初芝東店」を営業し、既存のお客様を維持できました。さらに、建て替えにより1階、2階とも明るくモダンな売場になったことで、メイン客層であるシニア層に加えて若年層のお客様が増え、顧客層が拡大しました。



エントランスの青果売場



精肉売場の冷蔵ショーケース



売り場とバックヤードとの間仕切がない

DATA



所在地 大阪府堺市東区日置荘西町1-11-4  
経営主体 株式会社ライフコーポレーション  
売場面積 1階1,690㎡ 2階1,731㎡

会社情報 (2024年3月31日現在)

株式の状況

|          |              |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 400,000,000株 |
| 発行済株式の総数 | 100,621,021株 |
| 株主数      | 10,202名      |

所有者別株式分布状況



大株主

| 株主名                     | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|-------------------------|---------|---------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 10,911  | 11.51   |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口)      | 5,342   | 5.63    |
| 日本製鉄株式会社                | 5,313   | 5.60    |
| オカムラグループ従業員持株会          | 5,255   | 5.54    |
| 明治安田生命保険相互会社            | 4,892   | 5.16    |
| 株式会社三菱UFJ銀行             | 4,350   | 4.59    |
| オカムラ協会持株会               | 3,811   | 4.02    |
| 三井住友海上火災保険株式会社          | 3,036   | 3.20    |
| 株式会社横浜銀行                | 2,853   | 3.01    |
| GOVERNMENT OF NORWAY    | 1,812   | 1.91    |

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
2. 持株比率は、自己株式(5,783,947株)を控除して計算しております。

会社概要

|       |                 |
|-------|-----------------|
| 設立    | 1946年7月         |
| 資本金   | 186億円           |
| 登記上本社 | 横浜市西区北幸二丁目7番18号 |
| 本社事務所 | 横浜市西区北幸一丁目4番1号  |
| 従業員数  | 3,940名          |

取締役及び監査役 (2024年6月25日現在)

| 地位            | 氏名     | 担当または主な職業             |
|---------------|--------|-----------------------|
| 代表取締役(社長執行役員) | 中村 雅行  |                       |
| 取締役(専務執行役員)   | 河野 直木  | オフィス環境事業本部長           |
| 取締役(常務執行役員)   | 山木 健一  | コーポレート担当              |
| 取締役(常務執行役員)   | 井上 健   | 高環境事業本部長              |
| 取締役(常務執行役員)   | 荒川 和巳  | 生産本部長                 |
| 取締役(執行役員)     | 福田 栄   | コーポレート担当              |
| 取締役(社外)       | 伊藤 裕慶  | ㈱キーストン・パートナーズ社外監査役    |
| 取締役(社外)       | 狩野 麻里  | 伊昭和女子大学全学共通教育センター特命教授 |
| 取締役(社外)       | 上條 努   | 大成建設㈱社外取締役            |
| 取締役(社外)       | 菊地 美佐子 | 伊聖路加国際大学常勤監事          |
| 取締役(社外)       | 水本 伸子  | ㈱クヤマ社外取締役監査等委員        |
| 取締役(社外)       | 丹保 人重  |                       |
| 監査役           | 永井 則幸  |                       |
| 監査役           | 萩原 圭一  |                       |
| 監査役(社外)       | 岸上 恵子  | 公認会計士                 |
| 監査役(社外)       | 宮崎 信太郎 | 弁護士                   |

執行役員 (2024年6月25日現在)

| 地位     | 氏名    | 担当                                 |
|--------|-------|------------------------------------|
| 常務執行役員 | 佐藤 喜一 | コーポレート担当                           |
| 上席執行役員 | 田尻 誠  | 物流システム事業本部長                        |
| 上席執行役員 | 酒徳 真司 | 高環境事業本部 リテイル・ソリューション本部長            |
| 上席執行役員 | 大野 嘉人 | 海外営業本部長                            |
| 執行役員   | 近藤 岳文 | オフィス環境事業本部 営業本部<br>施設環境ソリューション事業部長 |
| 執行役員   | 佐藤 春徳 | オフィス環境事業本部 営業本部 首都圏営業本部長           |
| 執行役員   | 有吉 真二 | オフィス環境事業本部 営業本部 関西支社長              |
| 執行役員   | 寺西 郁  | 高環境事業本部 営業本部 首都圏営業本部長              |
| 執行役員   | 加藤 達也 | 生産本部 第二事業部長                        |
| 執行役員   | 菱沼 博幸 | 生産本部 第一事業部長                        |
| 執行役員   | 眞田 弘行 | オフィス環境事業本部 マーケティング本部長              |



## サステナビリティピックス

# 自然と人との豊かな共生を目指す「ビオトープ富士」

オカムラが行っている自然共生と生物多様性に向けたアクション「ACORN（エイコーン）活動」の一環として、富士事業所（静岡県御殿場市）の敷地内にあった竹林を、生き物の生息環境を整えることを目的としたビオトープとして整備しました。より豊かな生物多様性の保全に寄与するため、ビオトープの生き物の生息状況や生態系がどのように変化して豊かになっているか、定期的なモニタリング調査を行っています。2024年4月現在、19科25種の野鳥を確認しており、ビオトープ富士が生物の重要な生活拠点の役割を果たしていることがわかっています。



詳しく読みたい方は  
こちら

オカムラライブスマイル 生物多様性を学べる場としてオカムラがビオトープをつくった理由  
<https://live.okamura.co.jp/post/?id=97>



「人が活きる」を考えるメディア「Okamura Live : ) (オカムラライブスマイル)」では、オカムラの人や仕事、挑戦などさまざまな取り組みを紹介しています。

## オカムラウェブサイトIR情報ページのご案内

決算情報をはじめ、最新の事業動向をご覧ください。

<https://ir.okamura.co.jp/>



## 株主メモ

|                         |               |
|-------------------------|---------------|
| 決算期                     | 3月31日         |
| 定時株主総会                  | 6月下旬          |
| 基準日                     | 3月31日         |
| 公告掲載新聞                  | 日本経済新聞        |
| 株主名簿管理人／<br>特別口座の口座管理機関 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 |

|         |  |
|---------|--|
| 同事務取扱場所 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部   |
| 同連絡先    | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部<br>東京都府中市日鋼町1-1<br>☎ 0120-232-711（フリーダイヤル）<br>郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 |

（ご注意） 株式に関する手続きのお届出先・ご照会先について

- 証券会社に口座を開設されている株主様は、口座を開設された証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記、特別口座の口座管理機関の連絡先にお問い合わせください。

人を想い、場を創る。  
**okamura**

株式会社オカムラ  
〒220-0004 横浜市西区北幸二丁目7番18号  
TEL：045-319-3401（代）

